

土中へ視点を持ち、施主の
共感を大切に樹木と向き合う

エコネット・むねざね

宗實久義

Hisayoshi Munezane



右 満願寺（兵庫・川西市）のソメイヨシノ。石板埋設工法で樹勢が回復した。砂利の下には70枚ほどの石板が敷かれている。

下 調査中の宗實さん。しっかりデータを取り、分析し、施主に、調査報告書として、提案書、実施計画書、報告書を提出する。これも「見える化」の一つ。

石を動かした時、その下に木の根っこが寄つてきている……。そんな経験をしたことはないだろうか。

樹木医事務所エコネット・むねざね 代表の宗實久義さんは、「石板埋設工法」という独自の工法を使う。このアイデアは、現場で庭を大型犬に荒らされ、ゴロタ石をひっくり返されたことに始まる。その石の下には他と比べて多くの根が張っていた。「なんでや……」そんな疑問から生まれた工法だ。

石が冷える温度と土が冷える温度の違いからわずかな水滴が生まれ、石が自動灌水装置の役目を果たしていたのだ。この原理を応用して樹勢回復のための工法へと試行錯誤を重ね、現在の工法へと至った（P79参照）。実際の現場では、樹幹下を改良後、板石や栗石を並べ水を誘い、仕上げは何事もなかったかのように整えられ、景観的にも美しい施工方法である。

共感を呼ぶさまざまな工法

エコネット・むねざねは、姫路駅から北へ約20km、兵庫県姫路市夢前町戸倉という山並みの美しい町にある。宗實さんはこの町に生まれ、長年電気部品の製造会社に勤務していた。50歳を過ぎた頃、電流を使って松くい虫被害の予防ができるのではないかとひらめき、突然この世界にのめり込んだという。現在は日本各地を駆け回り、銘木や有名寺社庭園、天然記念物等の樹木診断や治療を行い、独自の「自然の理」にかなった工法を提案している。

宗實さんの樹木診断、治療業務には、必ず明快な提案書・実施計画書・報告書がつくられ



性の改善を図る。

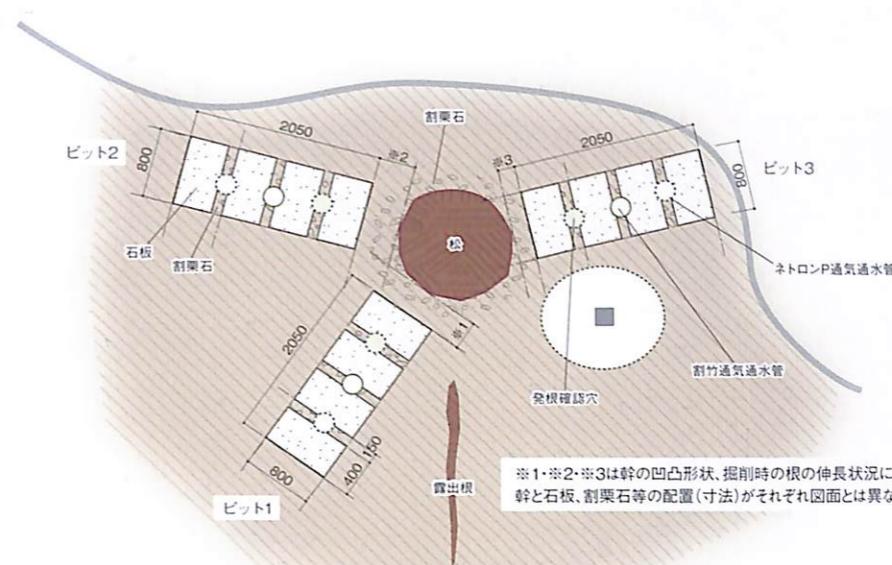
治療は地上が2割地下が8割

「樹木クリーニング工法」は特許を取得しており、高圧洗浄機を用いて樹木に付着したコケなどの有害付着物を洗浄し、その後洗浄部にコーティング液を塗布する。特許取得技術にも関わらず時には施主と一緒に作業をし、きれいになっていく姿を共有するといふ。

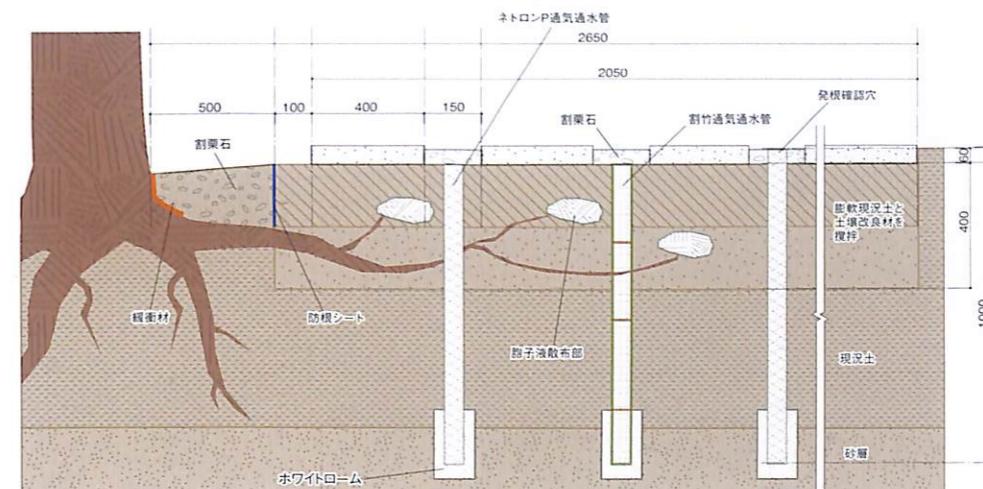
「土壤灌注」は動噴のホースに土壤灌注機を接続し、樹幹下の土中に高圧で直接希釈液を注入する。この機械は農業の世界ではよく使用されるが、造園の世界ではあまり見る機会がない。構造はいたってシンプルで、スコップやバールで穴を掘る施肥方法と比べて根を痛めることもなく、大きな力をかけずに土中に穴を開けることができる。灌注穴には改良剤を導入し、発根促進は勿論のこと同時に通水、通気

現在は講演会や研修会を開催し、後世に引き継ぎ若い世代を応援したいと、知識や経験、アイデアを出し惜しむことなく伝えている。

循環する庭——土中へのアプローチ Approach to the soil



石版埋没工法 平面イメージ図



石版埋没工法 断面イメージ図



左 石の下に水分を求めて集まる根。この現象を利用して「石版埋設工法」は生まれた。

右 ネトロンパイプを埋め込み石などで蓋をし後日確認すると、発根の状態が分かるという「見える化」の一つ（特許）。



自然現象からひらめきを得て開発された「石版埋設工法」。施工エリア全体に土壤灌注を行い（写真1）溝状に土壤改良後、通気用の割竹を埋め込み、石板を敷き並べ、その間に栗石を打ち（写真2）、仕上げは上に砂利を敷く（写真3）。人気の寺院では踏圧も懸念されるがこの工法ではその心配も緩和される。写真4は、露出させて延段のように仕上げたケース。